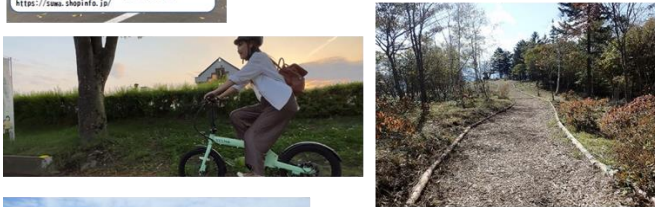


R 5 第六次諏訪市総合計画に基づく主要事業 効果検証結果

事業名	都市公園整備事業	K P I					評価・効果検証結果	
担当課・係	都市計画課 公園緑地係	指標	単位	R 5 目標値	R 5 実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	A 現状のまま継続
対象者	・公園利用者（各公園や緑地を訪れ利用する市民及び観光客）	更新対象公園数	箇所	1	1	100.0%	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続
							最終評価	A 現状のまま継続
事業のねらい	・集い、憩いの場として、多くの市民や観光客に訪れていただき、安全で快適に利用していただけるように、各公園や緑地の適正な維持管理を行う。	必要経費					外部検証委員からの 意見等（要約・抜粋）	・子どもたちを公園に連れて行って遊具で遊ばせるとき、この遊具はいつ点検されているのかを気にすることがあるが、それがどこに書いてあるのか、チェックがいつされたのかが分かりにくい。これらの明記を大々的にしていただくと安全安心につながると思う。 ・ただ新しくしただけでなく、現代風にアップデートしていて楽しげになっている。そういったことをアピールしながら、せっかとお金をかけて更新したので、より多くの人に使ってもらえるよう考えてほしい。 ・今年のゴールデンウィークは立石公園に向かう外国人で渋滞が起きた。アニメの影響によるもので、外国人の利用者が本当に多いため、一度利用者数を計ってみた方がいいと思う。また、観光と連携してやってみると面白いかもしれない。 ・小さな子どもを持つ一般的な市民の目線からすると、公園は市が管理してくれているものという認識なので、管理が手薄だと、諏訪市は子どものことを考えてくれていないという気持ちに直結してしまうと思う。この公園は諏訪市が管理しているということが明確になっていると、気持ち的に違うと思う。そういうアプローチが少しずつ細やかではないように感じる。
		R 5 予算額（千円）		33,000				
事業の手段	・各公園の清掃、除草、剪定、漂着物除去、施設修繕、施設改修などを、会計年度任用職員による直営、委託、工事請負等により計画的に実施する。 ・地域住民や関係地区等との管理協定の締結を目指すとともに、花木・管理用具等の提供を行う。	R 5 決算額（千円）		32,670				
		図・グラフ・写真など						
事業概要・現状	・公園施設については、経年により遊具に破損や腐食が見られ、健全度判定の結果も悪化していく状況である。 ・そのため、国費の補助などの交付を受け、令和4年度より長寿命化計画に基づく遊具更新を行っている。	蓼の海公園 アスレチック遊具 更新前 					最終判断理由	公園の快適性や景観の向上と利用者の安全を担保するため、これまで実施してきた除草や樹木の剪定、遊具やその他施設の点検や修繕、更新を継続して実施することが重要であるため現状のまま継続とした。 今後は公園を安心して利用できるように、公園の管理者や点検の時期などホームページへの掲載を含め確認できる方法を検討したい。また、長寿命化計画により更新され新しくなった遊具などの情報を随時発信し、利用の増進につなげたい。 立石公園は、混雑状況を確認できるように令和6年度にライブカメラを設置した。混雑時を避けるなど、できるだけ分散して利用してもらえるように周知していきたい。公園の利用者数や観光利用の状況把握などは、担当課との連携について課題としたい。
課 題	・公園の設置状況や特徴により補助金の交付対象とならず、更新の予定が立たない遊具・施設の対応が課題となっている。							
令和5年度実績に対する考察	・公園の樹木剪定や草刈の実施、委託先による毎日のトイレ清掃、また、遊具や公園内施設の点検も定期的に行うことにより、公園利用者の安全性や快適性の向上を図ることができた。 ・蓼の海公園のアスレチック遊具4基を更新。森林の中で自然と触れ合いながら安全に遊ぶことができるようになった。これにより、子どもたちの成長と体力の増進が期待できる。 ・今後も継続し更新予定であるが、それぞれの公園の雰囲気づくりや安全面を検討しながら計画を進めることが必要である。	蓼の海公園 アスレチック遊具 更新後 						
今後の取組の方向性	・遊具更新工事を先行させ、その後、公園施設の更新を計画していく。							

R 5 第六次諏訪市総合計画に基づく主要事業 効果検証結果

事業名	観光グランドデザイン関連事業 （諏訪市誘客コンテンツ造成プロモーション事業）	K P I					評価・効果検証結果	
担当課・係	観光課 観光係	指標	単位	R 5 目標値	R 5 実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	A 現状のまま継続
対象者	・観光事業者 ・関係事業者 ・市民団体 ・学生等	観光課が支援する観 光プロジェクト数	件	6	6	100.0%	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続
							最終評価	A 現状のまま継続
事業のねらい	・令和3年度に策定した諏訪市観光グランドデザイン実現に向けた動きとして、「諏訪市誘客コンテンツ造成プロモーション事業」を令和4年度から実施し、諏訪市への継続的な誘客につながる「誘客コンテンツ」の造成や磨き上げ、イベント等を行う市内の民間事業者等を支援することで、公民連携の動きを加速させながら、プラットフォームを形成し、観光地としての魅力の底上げを図る取組である。	必要経費					外部検証委員からの 意見等（要約・抜粋）	・魅力とは付加価値だと思う。複合されたものに魅力を感じると思うので、様々なところでコラボレーションしていくといいと思う。 ・映画やプロモーションビデオみたいなものも諏訪地域ではたくさん撮影しているので、それと掛け合わせたPRをすれば、観光客の中でも若い方たちが訪れるようになると思う。 ・諏訪市はたくさん観光資源があって魅力的な街だと思う反面、ありすぎて、諏訪市と言ったときにこれというものがなく、ぼやけてしまい、諏訪市としてこれ売っていくというものを絞ってもいいと思う。他の観光地でも、ここと言えばこれというのがあって、皆に好かれるのは無理な時代なので、その中で諏訪市としてどのような観光を描いていくのかがこれから大事だと思う。 ・観光に来られる方は、諏訪市の観光だけを求めているわけではなく、諏訪圏域、あるいは長野県全体、日本と言ってもいいと思うが、諏訪市という一行政単位のテリトリーに固執することなく、もう少し大きく広げて、隣の市町村も含めて、様々なコラボレーションをしていくような観点が大事だと思う。 ・コンテンツが多すぎて絞りきれないというのが現状ではないかと思う。市としてのしっかりとしたコンセプトがあり、それに対して民間の知恵を募集して発展させていけばいいと思う。 ・ホームページにはあまり旅行客はアクセスしていない。Instagramやティックトックが今一番多いようで、ホームページも大事だが、こういうユニークなところがあるというのに惹かれて外国人の方も田舎まで出掛けるので、そういったアプローチが必要ではないかと思う。
		R 5 予算額（千円）		3,700				
事業の手段	・市内の民間事業者や市民団体等を対象に、諏訪市への継続的な誘客につながる「SUWAらしさ」を創出する誘客コンテンツの造成や磨き上げ、イベント等に必要な費用の一部について、予算の範囲内において補助を行う。 ・観光事業者や新たなキーパーソン、市民団体等が参画するプラットフォームを形成する上で重要となる「観光ひらめきセミナー」を開催する。 ・造成された「誘客コンテンツ」や「観光ひらめきセミナー」等の内容を「Webプラットフォーム」へ掲載し、継続的な情報発信を行う。 ※長野県元気づくり支援金を活用	R 5 決算額（千円）		3,696				
		図・グラフ・写真など						
事業概要・現状	・諏訪観光協会との連携により、「諏訪市観光グランドデザイン」実現キックオフイベントを開催し、前向きな民間事業者等の出会いの場を創出した。 ・「SUWAらしい」観光地に向けた誘客コンテンツ造成事業補助金（R4年度：5件、R5年度：6件）を交付した。						最終判断理由	・外部検証委員からの意見にもあるように、「諏訪市観光グランドデザイン（令和3年度策定）」実現に向けた動きを進めるため、公民連携の動きを更に加速していく必要がある。 ・「諏訪市誘客コンテンツ造成プロモーション事業」は、観光客の滞在促進を図るため、「諏訪市観光グランドデザイン」実現に向けたアウトプットのひとつとして令和4年度から着手し、2年間の取り組みの成果としては、事業者同士の連携も進んできている。 ・多様な観光資源をもつ諏訪市は、世の中のムーブメントに合わせて観光資源を組み合わせることで、観光客に対して「新たな楽しみ方」をその都度提案することができる環境を有している強みがあるが、観光DXの推進やデジタルメディアを中心とした効果的な情報発信、といったテーマでは、「諏訪市観光グランドデザイン」実現に向けて、今後取り組むべき項目は多岐に渡る。 ・「諏訪市誘客コンテンツ造成プロモーション事業」は、令和4年度から令和6年度まで、3年間を視野に進めてきた取組であり、トライアンドエラーを繰り返し、PDCAを意識しながら様々なコラボレーション企画を令和7年度に向けて検討していく必要がある。
課 題	・新たに構築した「SUWAらしい」観光地に向けた誘客コンテンツ造成事業補助金により支援した『誘客コンテンツ』のフォローアップと、継続的な支援のあり方の検討。 ・「諏訪市観光グランドデザイン」実現に向けた新たな取組の研究。							
令和5年度実績に対する考察	・「SUWAらしい」観光地に向けた誘客コンテンツ造成事業補助金により、公民連携による新たな『チャレンジ＝誘客コンテンツ造成』を行うことができた。 ・一方で、意欲的な民間事業者からは、『民間事業者同士の連携』に加え、続けていくための情報発信や作ったものをお披露目する『場＝プロモーション』が課題であるという報告があった。 ・令和6年度事業は上記の考察を反映したかたちで、必要に応じ課内の推進体制を見直した上で、事業を構築し、新たな取組を展開していく。							
今後の取組の方向性	・諏訪市観光グランドデザイン実現に向けた取組の成果を確実に出していくため、ソフト事業（諏訪市誘客コンテンツ造成プロモーション事業等）のみならず、ハード事業（観光庁の高付加価値化事業等）を組み合わせることにより、取り組んでいく必要がある。							

R 5 第六次諏訪市総合計画に基づく主要事業 効果検証結果

事業名	消防団員処遇改善	K P I					評価・効果検証結果																																																																																					
担当課・係	消防課 消防係	指標	単位	R 5 目標値	R 5 実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	A 現状のまま継続																																																																																				
対象者	・諏訪市消防団員	年報酬、出勤報酬	千円	31,874	34,187	107.3%	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続																																																																																				
							最終評価	A 現状のまま継続																																																																																				
事業のねらい	・消防団員が著しく減少する中、多発化・激甚化する災害が全国で発生している。消防団を取り巻く社会環境の変化に対応するとともに、消防団の存在意義や役割を表現するため、求められる事項は多岐にわたる。消防団員が安心して活動が出来るよう、消防団に対する理解の促進、消防団員の入団促進、消防団のイメージアップ、装備等の充実を目指す。	必要経費					外部検証委員からの 意見等（要約・抜粋）	・消防団員として活躍する方は、20代、30代、40代の若手の方が多いと思うが、時代の変化とともに、家族を大事にする若い方が増えていると思う。家族の時間も大事にできるようなシステムになるといいと思う。 ・報酬の支払い不足が生じないように、実際に活動したのであれば、その分は支払ってあげていただきたい。 ・消防団員のモチベーションを下げないように、年に1回でも消防団員に感謝を伝えるイベントなどを消防関係者以外の主催によりできるといいと思う。広報などに消防団員への感謝の言葉を載せるなど、日常生活の中で過ぎてしまうようなことも少し立ち止まってもらえるような、感謝の言葉をプラスの気持ちに変えられるように伝えることを何かできたらいいと感じた。																																																																																				
		R 5 予算額（千円）		34,525																																																																																								
事業の手段	・社会的評価の向上と広報の充実。 ・消防委員会、消防団組織再編計画策定委員会において、訓練のあり方の検討、見直しを含む社会状況の変化にあわせた消防団のあり方、再編について議論を進める。 ・消防団協力事業所表示制度、学生消防団活動認証制度などの取組の再周知、フォローアップを行い、入団促進に取り組む。 ・準中型運転免許取得補助金の拡充。	R 5 決算額（千円）		34,187																																																																																								
		図・グラフ・写真など																																																																																										
事業概要・現状	・消防団員に係る年報酬、出勤報酬を国が基準とする報酬額に改善し、個人支給が確立された。また、消防団サポート事業の拡充、学生消防団活動認証制度の創設を行った。	実員数の推移  <table><caption>実員数の推移（推定値）</caption><tr><th>年度</th><th>団本部</th><th>ラッパ隊</th><th>第1分団</th><th>第2分団</th><th>第3分団</th><th>第4分団</th><th>第5分団</th><th>第6分団</th><th>第7分団</th><th>第8分団</th><th>合計</th></tr><tr><td>H31.4.1</td><td>125</td><td>15</td><td>520</td><td>120</td><td>120</td><td>65</td><td>120</td><td>135</td><td>120</td><td>125</td><td>780</td></tr><tr><td>R2.4.1</td><td>90</td><td>15</td><td>450</td><td>120</td><td>120</td><td>65</td><td>120</td><td>135</td><td>120</td><td>125</td><td>700</td></tr><tr><td>R3.4.1</td><td>88</td><td>15</td><td>400</td><td>120</td><td>120</td><td>65</td><td>120</td><td>135</td><td>120</td><td>125</td><td>680</td></tr><tr><td>R4.4.1</td><td>85</td><td>15</td><td>380</td><td>120</td><td>120</td><td>65</td><td>120</td><td>135</td><td>120</td><td>125</td><td>650</td></tr><tr><td>R5.4.1</td><td>75</td><td>15</td><td>320</td><td>120</td><td>120</td><td>65</td><td>120</td><td>135</td><td>120</td><td>125</td><td>600</td></tr><tr><td>R6.4.1</td><td>70</td><td>15</td><td>300</td><td>120</td><td>120</td><td>65</td><td>120</td><td>135</td><td>120</td><td>125</td><td>580</td></tr></table>					年度	団本部	ラッパ隊	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団	第6分団	第7分団	第8分団	合計	H31.4.1	125	15	520	120	120	65	120	135	120	125	780	R2.4.1	90	15	450	120	120	65	120	135	120	125	700	R3.4.1	88	15	400	120	120	65	120	135	120	125	680	R4.4.1	85	15	380	120	120	65	120	135	120	125	650	R5.4.1	75	15	320	120	120	65	120	135	120	125	600	R6.4.1	70	15	300	120	120	65	120	135	120	125	580	最終判断理由	消防団活動では、規律を重んじ、災害時に必要となる訓練を行っているところではあるが、昨今、消防団員のなり手不足は否めず、消防団のPRイベント「消防フェア」、団員相互のレクリエーション及び各種式典の際には、団員の家族にも積極的に参加していただけるよう周知を図っていきたいと考えている。 令和3年度、4年度と段階的に団員階級年報酬を底上げし、総務省の示す一定の報酬基準に達している状況の中で、令和5年度、6年度には社会的な影響のある山林火災や建物火災など、長時間を要する出動が多く、防火広報や各種訓練も含める中で、出勤報酬の適正支出に心がけ、更に処遇改善を推進していきたい。
年度	団本部	ラッパ隊	第1分団	第2分団	第3分団	第4分団	第5分団	第6分団	第7分団	第8分団	合計																																																																																	
H31.4.1	125	15	520	120	120	65	120	135	120	125	780																																																																																	
R2.4.1	90	15	450	120	120	65	120	135	120	125	700																																																																																	
R3.4.1	88	15	400	120	120	65	120	135	120	125	680																																																																																	
R4.4.1	85	15	380	120	120	65	120	135	120	125	650																																																																																	
R5.4.1	75	15	320	120	120	65	120	135	120	125	600																																																																																	
R6.4.1	70	15	300	120	120	65	120	135	120	125	580																																																																																	
課 題	・地域防災力の中核である消防団員は、社会環境が変化しても存在意義は変えられないものであり、消防団に若年層や被用者が参加しやすい環境を整えなければならない。																																																																																											
令和5年度実績に対する考察	・消防団サポート事業については、消防団協力事業所2件、サポートショップ1件を拡充することができた。 ・霧ヶ峰林野火災では、休日で家族との予定もある中、2日間で延べ181名が出動し消火活動に従事したことで被害を最小限に食い止めることができた。 ・令和5年度の市内火災件数は16件で、うち11件が建物火災であったため長時間の消火活動に多くの団員が対応した。 ・消防団再編計画策定委員会を5月に立ち上げ、持続可能な消防団の再編計画の策定について議論を始めた。 ・令和5年度に創設した準中型運転免許取得補助制度については、団員からの取得希望が非常に多かったことから、令和6年度は30万円から50万円に拡充して対応している。																																																																																											
今後の取組の方向性	・分団内、分団の再編に取り組み、合理化と機動力の向上を図る。 ・各種訓練の負担軽減に取り組み、退団抑止と加入促進を図る。 ・消防団DXの推進に取り組む。																																																																																											

R 5 第六次諏訪市総合計画に基づく主要事業 効果検証結果

事業名	業務スマート化プロジェクト	K P I					評価・効果検証結果																					
担当課・係	企画政策課 スマート化推進係	指標	単位	R 5 目標値	R 5 実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	B 手段改善の上継続																				
対象者	・市民、事業者、諏訪市に関わる全ての方 ・諏訪市職員	DX推進に向けた新規 取組（達成）事項の 件数	件	5	9	180.0%	外部検証委員会の評価	B 手段改善の上継続																				
							最終評価	B 手段改善の上継続																				
事業のねらい	「イマとミライがつながる、すわ。」をDX推進方針とし、デジタル技術を活用し市民誰一人取り残さない行政サービスの充実、効率化、スピードアップ、地域課題への対応に取り組み、将来に亘り安定した行政サービスを提供する。 イマ：今現在から将来に亘り、居間（自宅リビング）でオンライン手続きや市からの情報を受取る ミライ：時間的な未来、先進的な技術	必要経費					外部検証委員からの 意見等（要約・抜粋）	・便利になる一方で、不自由を感じる人はいないか、取り残されている人はいないかを考えたときに、思い当たるのは高齢者や障がいをお持ちの方だと思うので、自分たちの主観だけで物事を判断しないようにしていただきたい。書くことに抵抗感が強かったり、障がいがあって書くことが大変だったりという方がいるので、そんなところに先に寄り添っていただけるとありがたいと思う。 ・これから機械化されていくにあたって、案内をしてくれたり、取り次いでくれたりするような方の存在がとても大事だとも思うので、高齢者の方や障がいのある方にも寄り添えるようなサポートもつけたまま、DXを進めてほしいと思う。 ・有給休暇の取得率や育休産休のこと、あるいは、よく企業がエンゲージメント調査というものを行うが、働きがいや職員の意識の変化を数年に一度でも調査したり、市民への行政サービスについても、市民へアンケートをしたりして、窓口は待ち時間が減ったなどの効果が出てくると思うので、そういったものを継承する仕組みのようなものを検討してほしい。 ・ホームページ等の画面があまりスマートではないという印象。年輩の方は、クリックする場所も分からないだろうし、非常に見づらい。例えば、大企業のホームページなどはとてもスマートで、そういうものを少し真似していただいて、お年寄りはおそらくスマホではなくパソコンを使うと思うが、お年寄りがスマートに使えるように検討してほしい。																				
		R 5 予算額（千円）		17,135																								
事業の手段	・デジタル技術の効果的な活用により、市民の皆様はじめ関係者の利便性を高め、職員は人にしか出来ない仕事に重心を置き行政サービスの向上を図る。 ・少子高齢化に伴う人的資源の縮小を念頭に、限られた職員数で最大限のパフォーマンスを発揮でき、かつ、職員にとっても働きやすく魅力ある諏訪市役所作りを進める。	R 5 決算額（千円）		15,417		図・グラフ・写真など																						
事業概要・現状	将来に亘り市役所の業務を維持できるスマート自治体を目指し、ICTを活用して誰一人取り残さない行政サービスの充実、効率化を目指す取組。統合型GIS・公開型GISのデータ拡充、電子申請サービスの拡充等を実施。	業務スマート化推進委員会 委員長:副市長 副委員長:企画部長 委員:部局長、庶務担当課長等 スマート化部会 マイナンバー制度部会 公共施設 マネジメント部会 職員育成部会 【実務系】 システム標準化分科会 GIS活用分科会 【構想系】 ペーパーレス推進分科会 次世代型市役所分科会 建築系分科会 インフラ分科会 計画推進分科会 ・横断的な業務スマート化推進に向けた組織化 ・幹部職員から若手職員まで延198名が参画																										
課 題	DX推進のための基礎的なツールやサービスの導入が進み、より市民目線でそれらをどう活用していくか検討が必要な段階に入っている。職員が働きやすい環境づくりによる業務効率化も課題である。																											
令和5年度実績に 対する考察	本事業に設定したKPIは、新たな取組の実績件数（種別）をカウントしており、令和5年度は子育て世帯の利便性向上をはじめとしたDX推進施策を進めることができた。アプリなど様々なデジタルツールは利便性を高めるための手段であり、対面等による従前の対応は、必要な場面で一層丁寧な対応ができる組織体制になることが目標である。誰一人取り残さない行政サービスの在り方とそれに資するデジタルツールの活用方法を研究し、実現していく必要がある。 委員会設置により、市民サービス向上、DX推進、職員の働きやすさなどの観点から横断的な議論を進めることができた。今後も引き続き議論を深め、全部局が一体となって業務スマート化に取り組んでいく必要がある。	計画書で方向性と取組状況を共有 業務スマート化プロジェクト計画書 諏訪市役所 企画部 企画政策課 スマート化推進係 更新 行政地理院 S.A.C SUWA ACTION CODE #3 本計画の目的は、 市民の利便性向上と業務効率化の促進を図る ことであり、その実現のために、関係部署と連携して取り組む。 <table><tr><td>AI</td><td>RPA</td><td>DX</td><td>DX</td><td>DX</td></tr><tr><td>GIS</td><td>Cloud</td><td>DX</td><td>DX</td><td>DX</td></tr><tr><td>Speech T.T</td><td>Speech T.T</td><td>Online Meeting</td><td>Online Meeting</td><td>Online Meeting</td></tr><tr><td>Telework</td><td>テレワーク 推進</td><td>テレワーク 推進</td><td>テレワーク 推進</td><td>テレワーク 推進</td></tr></table> <事業例> 公開型GIS「すわなび」の データ拡充で利便性向上 							AI	RPA	DX	DX	DX	GIS	Cloud	DX	DX	DX	Speech T.T	Speech T.T	Online Meeting	Online Meeting	Online Meeting	Telework	テレワーク 推進	テレワーク 推進	テレワーク 推進	テレワーク 推進
AI	RPA	DX	DX	DX																								
GIS	Cloud	DX	DX	DX																								
Speech T.T	Speech T.T	Online Meeting	Online Meeting	Online Meeting																								
Telework	テレワーク 推進	テレワーク 推進	テレワーク 推進	テレワーク 推進																								
今後の取組の方向性	令和5年度に新たに設置した「業務スマート化推進委員会」及び下部組織の部会、分科会を通じて、部局横断的な推進体制を構築し、全庁でDXを推進する。	最終判断理由																										